

## 吹田市食育推進計画の評価

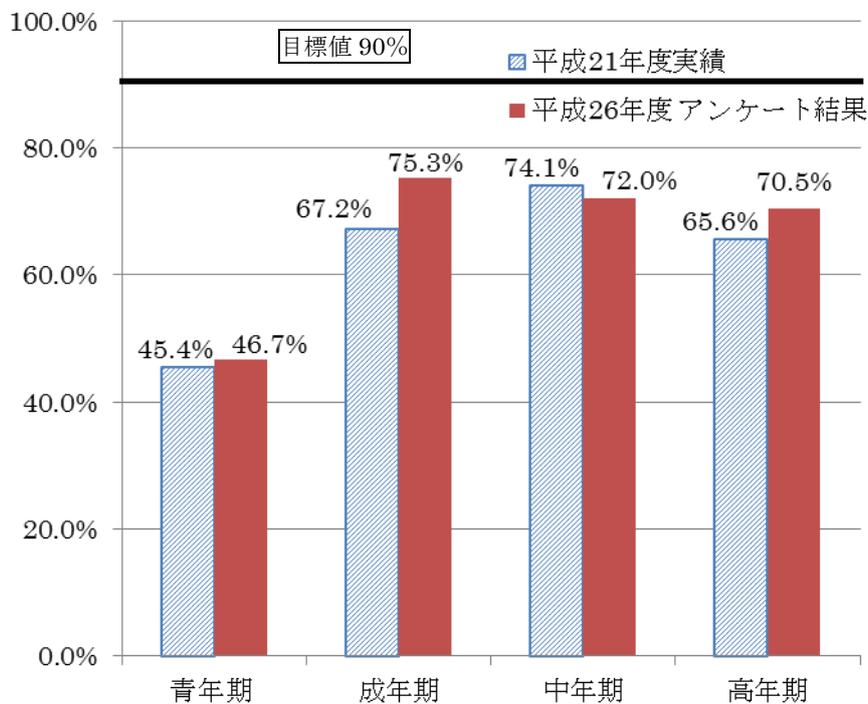
平成 26 年度に実施した「吹田市健康に関する市民意識アンケート調査」結果から、平成 27 年度目標値に対する計画の進捗状況を以下の通りまとめました。

### 目標1 食育に関心を持っている市民の増加

評価基準：アンケートで食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人の割合

平成 21 年度実績		平成 26 年度 アンケート結果	平成 27 年度 目標
青年期 (中学卒業～24 歳)	45.4%	46.7%	90%
成年期 (25～39 歳)	67.2%	75.3%	
中年期 (40～64 歳)	74.1%	72.0%	
高年期 (65 歳以上)	65.6%	70.5%	

参考：国の第 2 次食育推進基本計画の目標値 平成 27 年度末 90%以上



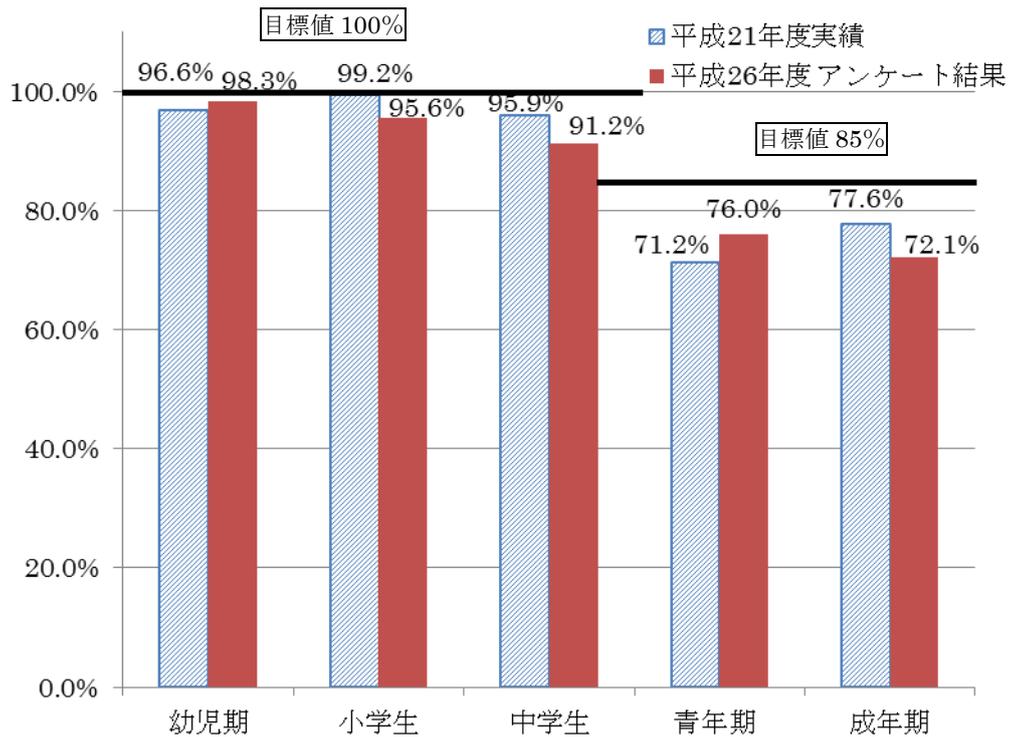
食育に関心を持っている市民については、中年期でやや減少し、その他の青年期、成年期、高年期で増加している。

## 目標2 朝食を毎日食べる市民の増加

評価基準：アンケートで朝食を「ほぼ毎日食べる」と答えた人の割合

平成 21 年度実績		平成 26 年度 アンケート結果	平成 27 年度 目標
幼児期(2歳～就学前)	96.6%	98.3%	100%
小学生	99.2%	95.6%	
中学生	95.9%	91.2%	
青年期(中学卒業～24歳)	71.2%	76.0%	85%
成年期(25～39歳)	77.6%	72.1%	

参考：国の第2次食育推進基本計画の目標値「朝食を欠食する割合」平成27年度末  
子ども0%、20～30歳代男性15%以下

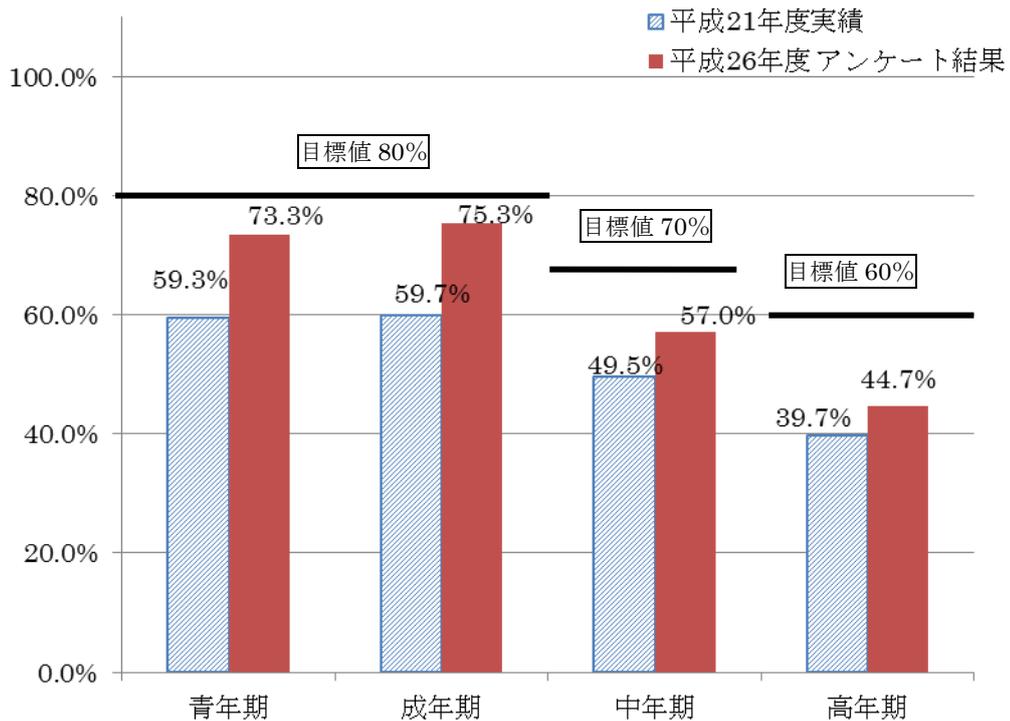


朝食を食べる市民については、幼児期、青年期で増加しているが、小学生、中学生、成年期で減少している。

**目標3****食事バランスガイドを認知している市民の増加**

評価基準：アンケートで食事バランスガイドを「見たことがある」と答えた人の割合

平成 21 年度実績		➔	平成 26 年度 アンケート結果	平成 27 年度 目標
青年期 (中学卒業～24 歳)	59.3%		73.3%	80%
成年期 (25～39 歳)	59.7%		75.3%	
中年期 (40～64 歳)	49.5%		57.0%	70%
高年期 (65 歳以上)	39.7%		44.7%	60%

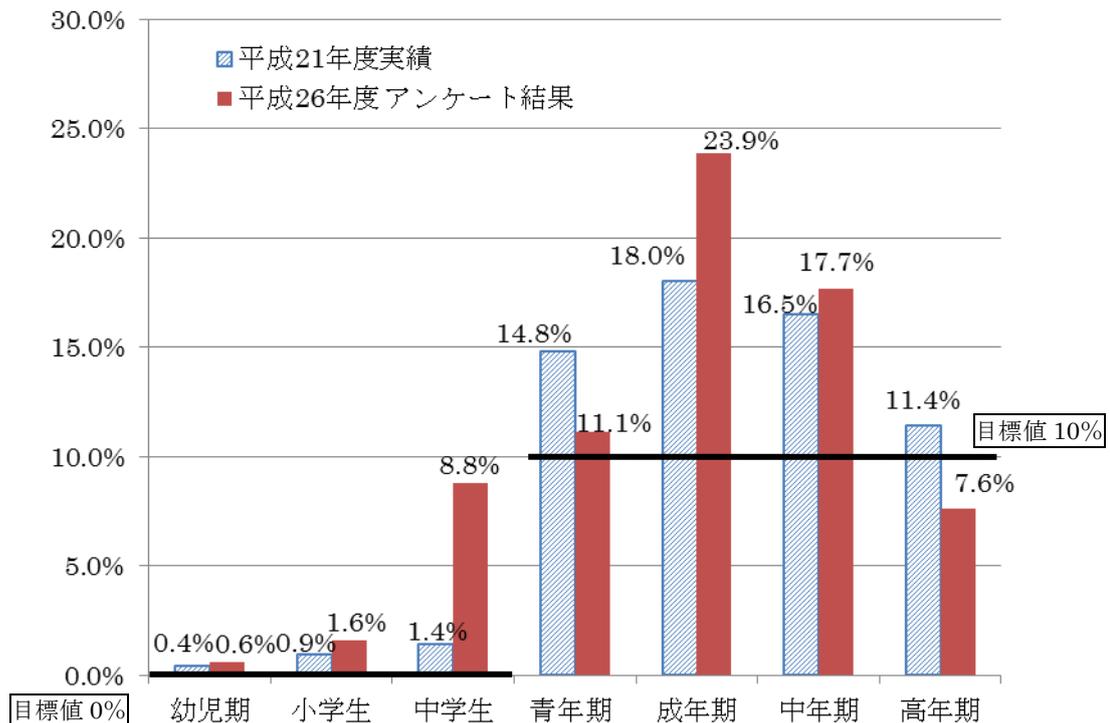


食事バランスガイドの認知については、いずれも目標値には到達していないが、増加しており、特に青年期、成年期での増加率が高い。

**目標4****夕食について孤食が「よくある」市民の割合の減少**

評価基準：アンケートで家族と一緒に暮らしている人で夕食の孤食を「よくある」と答えた人の割合

平成 21 年度実績		平成 26 年度 アンケート結果	平成 27 年度 目標
幼児期(2歳～就学前)	0.4%	0.6%	0%
小学生	0.9%	1.6%	
中学生	1.4%	8.8%	
青年期(中学卒業～24歳)	14.8%	11.1%	10%
成年期(25～39歳)	18.0%	23.9%	
中年期(40～64歳)	16.5%	17.7%	
高年期(65歳以上)	11.4%	7.6%	

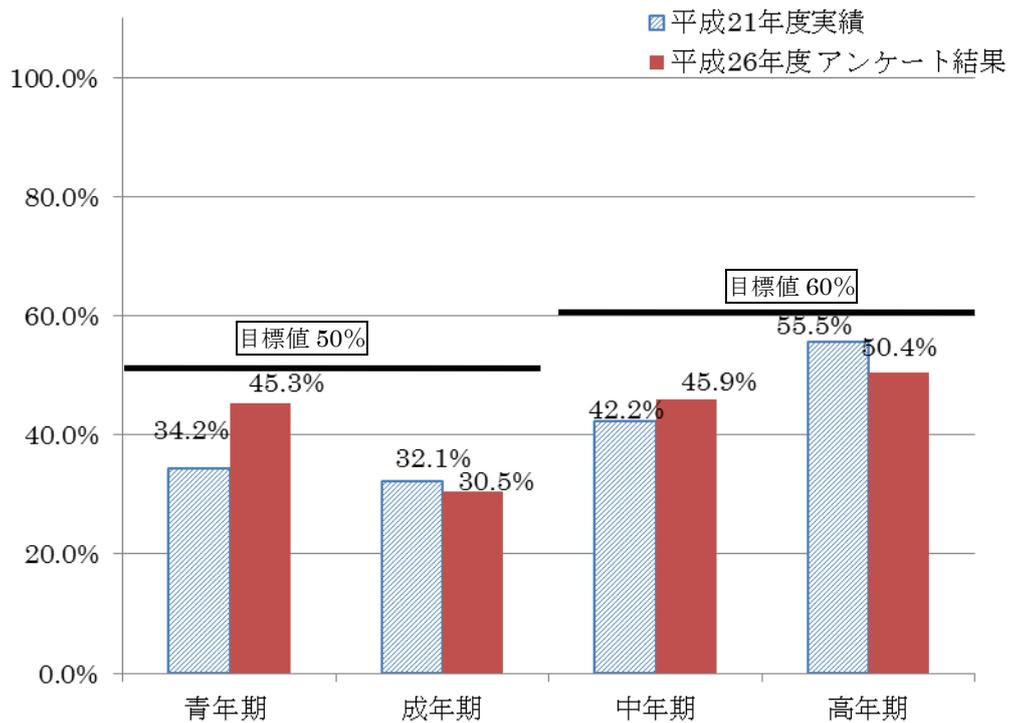


夕食での孤食の割合は、青年期及び高年期では減少しているが、その他のライフステージでは増加している。特に中学生、成年期の増加率が高い。

**目標5****定期的に歯科健診を受診している市民の増加**

評価基準：アンケートで定期的な歯科健診を「年1回以上受けている」と答えた人の割合

平成 21 年度実績		平成 26 年度 アンケート結果	平成 27 年 度目標
青年期 (中学卒業～24 歳)	34.2%	45.3%	50%
成年期 (25～39 歳)	32.1%	30.5%	
中年期 (40～64 歳)	42.2%	45.9%	60%
高年期 (65 歳以上)	55.5%	50.4%	

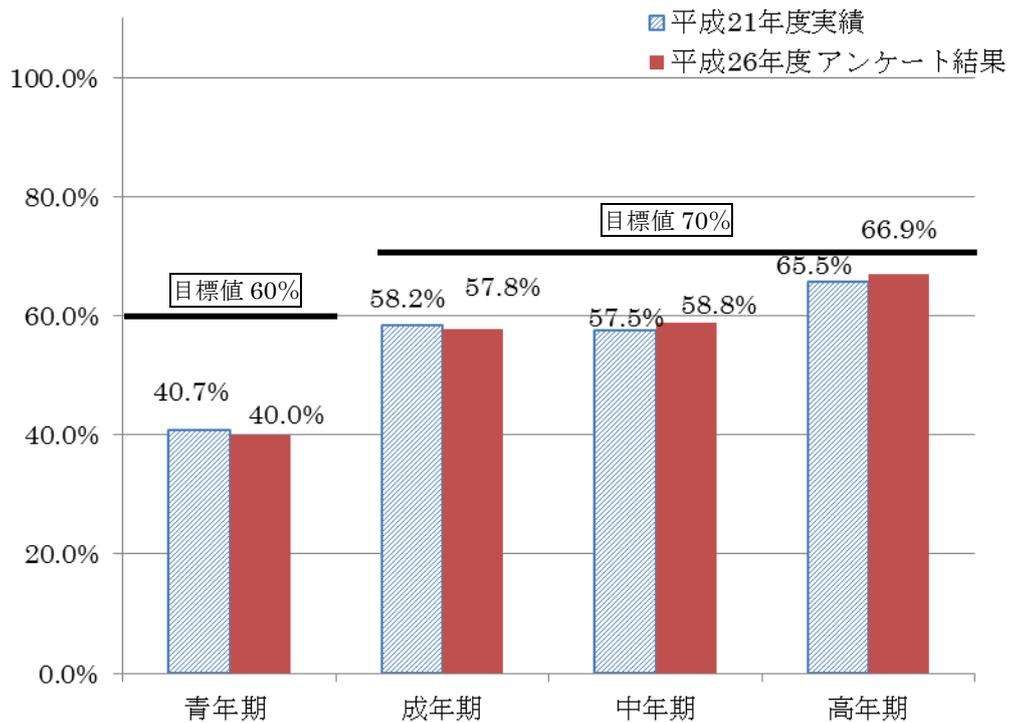


定期的に歯科健診を受診している市民の割合は、成年期及び高年期で減少しており、青年期、中年期で増加している。特に青年期での増加率が高い。

**目標6****食品の無駄な廃棄を減らす努力をしている市民の増加**

評価基準：アンケートで食べ残しや賞味・消費期限切れで捨てる食品を減らす努力を「いつもしている」と答えた人の割合

平成 21 年度実績		平成 26 年度 アンケート結果	平成 27 年度 目標
青年期（中学卒業～24 歳）	40.7%		
成年期（25～39 歳）	58.2%	57.8%	70%
中年期（40～64 歳）	57.5%	58.8%	
高年期（65 歳以上）	65.5%	66.9%	

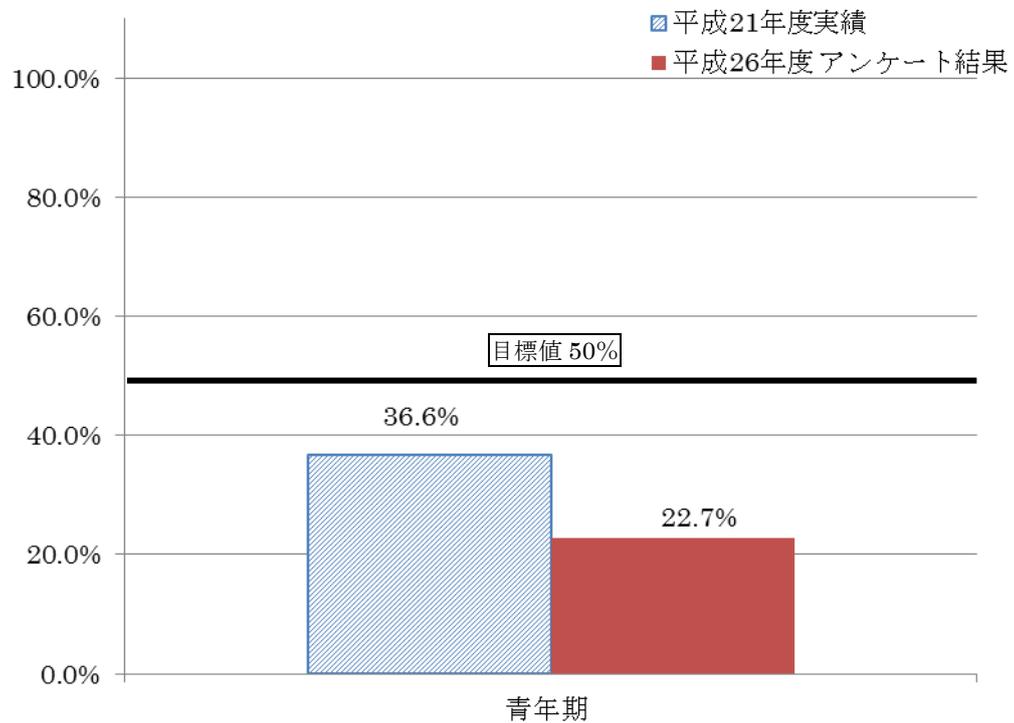


食品の無駄な廃棄を減らす努力をしている市民の割合は、平成 21 年度と比較して大きな変化はない。

**目標7****自分で食事の準備ができる市民の増加**

評価基準：アンケートで1人で食事の準備が「できる」と答えた青年の割合

平成 21 年度実績		→	平成 26 年度 アンケート結果	平成 27 年度 目標
青年期（中学卒業～24 歳）	36.6%		22.7%	50%



自分で食事の準備ができる市民は、青年期で 36.6%から 22.7%に減少している。